

令和7（2025）年度

運営に関する計画・自己評価

最終評価



大阪市立木津中学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○生徒は落ち着いた状況で学校生活を送ることができている。全国学力学習状況調査等の結果からも自尊感情や自己有用感の高まりが確認でき、このことがベースとなり今の学校の状況を作り上げている。厳しい生活状況の中ではあるが、授業規律は確立されており規範意識も高い。このような状況は、普段のきめ細かな生徒指導や学校行事・学年行事等の運営が土台となっており、引き続きこの状況を維持しつつ、取り組みを継続していくことが必要である。

○課題としては、基礎学力の定着・基本的な生活習慣の確立や家庭学習の定着などがあげられ、さらなる授業改善を行い主体的・対話的に深く学ぶ姿勢を育むとともに、しっかりと家庭と連携しつつ現状を改善していく取り組みが必要である。

○現在本校における生活指導の取り組みについては、生徒や保護者の理解と信頼を得ながらスムーズな指導体制が整っている。この現状を維持しつつ丁寧に対応し、いじめや問題行動が発生しないよう未然防止の取り組みを今後も教職員と地域関係諸機関で進めていく必要がある。

○支援が必要な家庭環境にある生徒が多く、継続的な支援と保護者も含めて相談しやすい地域関係諸機関との環境の整備やさらなる連携がいる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の中学生チャレンジテスト・アンケートの結果において「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上にする。

（令和5年度79%「校内調査」）

○令和7年度の生徒のアンケートの結果において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目において、肯定的に回答する生徒の割合を、82%以上になるように維持する。（令和5年度79%）

○令和7年度の生徒のアンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」の項目への肯定的な回答の割合を、令和5年度の水準（97%）を維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率が、全国平均と10ポイント以上の開きが発生しないようにする。（令和5年度11.1ポイント）

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比1.01をめざす。

○生徒アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を、令和5年度の水準（90%）を維持する。

○近年、外国からの転入生が多く、日本語日常会話もできない生徒も存在する。これら外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、100%の進路保障をめざす。

【学びを支える教育環境の充実】

○生徒が授業日において、学習者用端末を1日1回は使用する割合を100%をめざす。ただし、学校行事等ICT活用が適さない日を除く）

○「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を **85%以上**にする。 (令和6年度76%)
- ②年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を **前年度より減少**させる。 (令和6年度17.6%)
- ③年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の **割合を増加**させる。 (令和6年度14%) ☒

学校園の年度目標

- ④生徒アンケートの結果において、「毎朝登校前に朝食を食べている」の項目への肯定的な回答の割合を、**85%以上**にする。 (令和6年度82%)
- ⑤生徒アンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」・「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答割合を **令和6年度の水準 (94・95%)** を維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **2ポイント向上**させる。 (令和6年度2年国語0.78数学0.73/1年国語0.80数学0.77)
- ②大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合(4技能)を、**55%以上**にする。 (令和5年度38.8%/令和6年度69.7%)
- ③年度末の校内調査における「学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を **40%以上**にする。 (令和6年度34%)
- ④年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を **55%以上**にする。 (令和6年度49%)

学校園の年度目標

- ⑤令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の **全国比1.01**をめざす。 (令和6年度男子0.98/女子0.90)
- ⑥生徒アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を **令和6年度の水準 (93%)** を維持する。
- ⑦外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、**100%の進路保障**をめざす。 (令和6年度100%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、**年間授業日の50%以上**にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) (令和6年度1%)
- ②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を **90%以上**にする。 (令和6年度84%)

学校園の年度目標

- ③授業日における、学校ホームページの平均アクセス数を、**100以上**を維持する。 (令和6年度127.6)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合は、**80.5%**となり、目標の85%を上回ることができなかったが、昨年度の76%を上回ることができた。また、肯定的な回答全体としては、**92.0%**であった。B
- ②年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率は、**10.1%**となり、前年度の17.6%より減少させることができた。A
- ③年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合は、**8.3%**となり、前年度の14%を超えることができなかったが、不登校生在籍比率が下がった。B

学校園の年度目標

- ④生徒アンケートの結果において、「毎朝登校前に朝食を食べている」の項目への肯定的な回答の割合が、**80.4%**となり、目標の85%を上回ることができなかった。B
- ⑤生徒アンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」・「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答割合が、「あいさつ」が**99%**、「言葉づかい」が**91.2%**となり、前年度の「あいさつ」93.9%を上回り、「言葉づかい」95.1%を下回った。平均すると、前年度並みの結果となっている。B

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、3年生は、国語で**0.02ポイント上昇の0.80**、数学で**0.02ポイント上昇の0.75**となり、2年生では、国語で**0.09ポイント上昇の0.89**、数学で**0.03ポイント上昇の0.80**となった。いずれも、目標の前年度より2ポイント向上に至らなかったが、一定の成果が見られた。B
- ②大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合（4技能）は、46.3%で、目標の55%を上回ることができなかったが、令和5年度38.8%を上回ることができた。B
- ③年度末の校内調査における「学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにできていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合は、前年度の34%を上回る**43.7%**となり、目標の40%を上回ることができた。A
- ④年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は**41.1%**となり、目標の55%を超えることができなかったが、肯定的な回答全体では**80.5%**となった。B

学校園の年度目標

- ⑤令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比が**男子0.67/女子0.77**となり、目標の1.01を上回ることができなかった。C
- ⑥生徒アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合が**85.3%**となり、前年度水準の93%を下回った。B
- ⑦外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、**100%**の進路保障ができています。A

【学びを支える教育環境の充実】

①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の**34.8%**となり、目標の50%以上には届かなかったが、前年度の1%から大きく向上させることができた。また、9月中旬の端末更新を機に、生徒の持ち帰り等を導入した日以降で集計すると、平均使用率が**81.0%**となり、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、当該期間授業日の**64.2%**となり、目標の50%を上回っている。A

②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合が、**83.4%**となり、目標の90%以上にはならなかったが、教員一人あたりの平均時間外勤務時間が、**27時間33分**と前年度の28時間43分より1時間10分縮減でき、本市同校種の平均より10時間程度短い状況となっている。A

学校園の年度目標

③授業日における、学校ホームページの平均アクセス数が**132.2**となり、目標の100以上を維持することができ、昨年度の127.6を上回ることができた。A

大阪市立木津中学校 令和7（2025）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標（最重要目標1 安全・安心な教育の推進）	達成状況
<p>①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。 <i>（令和6年度76%）</i></p> <p>②年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を 前年度より減少させる。 <i>（令和6年度17.6%）</i></p> <p>③年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の 割合を増加させる。 <i>（令和6年度14%）</i></p> <p>学校園の年度目標</p> <p>④生徒アンケートの結果において、「毎朝登校前に朝食を食べている」の項目への肯定的な回答の割合を、85%以上にする。 <i>（令和6年度82%）</i></p> <p>⑤生徒アンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」・「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答割合を 令和6年度の水準（94%・95%）を維持する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間を振り返って、教育相談、懇談、いじめのアンケート調査、相談申告機能を実施する <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週末に「1週間を振り返って」のアンケートを実施し、生徒が1週間どのように過ごしたのかを把握する。あいさつ、言葉使いについても項目を設定し、規範意識を高める。教育相談と懇談を全学年年2回以上実施する。 ・生徒から悩みの相談や、相談申告機能での申し出があれば、随時対応する。 	B
取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 「1週間を振り返って」を毎週末に実施し、トラブルを未然に防いだり、早期に対応している。5月の「いじめについて考える日」の前後にいじめアンケートを行い、随時対応を行った。教育相談では、生徒の様子を把握し、日々の指導に繋げることができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 教育相談や懇談を定期的に行うことにより、生徒の困りごとや悩み事を話す機会を作ることができた。また、アンケートを行うことにより、生徒が抱えている問題の早期発見にもつなげることができた。来年度も引き続き取り組んで、問題の事前把握や初期対応ができるように心がけていきたい。</p>	

取組内容②【基本的な方向1 児童虐待等への対応】		B
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員対象の研修会で生活指導の情報交換会を設け、不登校生徒、虐待の恐れがある生徒の把握、対応策を計画する。また、普段の生活指導の課題を見だし改善に努める。 ・関係諸機関と連携をはかる。(2ヶ月に1回のスクリーニング会議、要対協の開催、警察OBの巡回訪問相談) 		
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・週1回以上の教職員情報交換会を設け、気になる生徒の実態を把握する。教職員と、生徒との深い信頼関係を維持させるため普段の学校生活から正しいあいさつ、言葉づかい、コミュニケーションの工夫などを実践しているか研修会の中で確認する。 ・またSCや関係諸機関など、積極的かつ綿密な連携をはかり、生徒が専門的な指導を受けられる体制を整えること、早期での対応ができることに努める。 		
取組の進捗状況の結果と分析		
②	きめ細やかな生徒情報交換を行った。そのため、職員が学年を越えて生徒の実態を把握し関わることができた。また、職員会議でも生徒の情報交換を行い、日々の出来事については「いいとこみつけ」を活用することにより生徒理解に努めることができた。また、外部と会議を行い、関係諸機関と綿密な連携をはかることで、学外での生徒の家庭状況を知ることができた。課題を残す部分はあるが、運動して対応することができた。	
次年度への改善点		
②	積極的に関係諸機関と連携を図り、協力できた。自傷行為やOD等を行う生徒への対応に難しさを感じる部分もあったが、会議等で教職員間の生徒情報交換を細かく行い、実態の把握や対応に当たることができた。来年度も学校や生徒の実態に合わせて適宜研修会を開く。	
取組内容③【基本的な方向1 防災・減災教育の推進】		B
<ul style="list-style-type: none"> ・「消防計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。 		
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・火災避難訓練(5月)・区役所との防災訓練(7月)・大阪880万人(地震・津波)訓練(9月)を実施する。 		
取組の進捗状況の結果と分析		
③	「消防計画」「安全対策マニュアル」に基づき、火災避難訓練を実施し、迅速、冷静、安全に行動することができた。防災訓練では、起震車で地震を体験するなど防災に対する意識を高めることができた。また、地震・津波の避難訓練においては、特に津波に対する防災の意識を高めることができた。	
次年度への改善点		
③	今年度、避難訓練(火災)・中学生の防災訓練・避難訓練(地震)を行うことで、生徒・教職員とも冷静・迅速に非難することができた。また、防災意識を高めることもできた。次年度も今年度同様に冷静・迅速に非難することができるように訓練を行うとともに、訓練だけでなく防災意識を高める講話などを実施していきたい。	
取組内容④【基本的な方向1 安全教育の推進】		B
<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育について、教科の学習や外部講師を招きSNSなどの被害から生徒を守る。 		
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上警察によるスマートフォンの取り扱い、SNS使用上の注意についての講演会を開く。必要であればその都度外部講師を招き、指導に役立てる。また、リーフレットの配布や、各教科の学習、集会の中でSNS上の事例を紹介し、予防策、解決策を中心に情報モラル教育の充実を図る。 		
取組の進捗状況の結果と分析		
④	浪速警察による非行防止安全教室を開催してSNSの使い方について指導を行った。保護者(新入生)への協力依頼は新入生向けの説明会や入学式で行った。生徒への事前指導は全校集会や学年集会で話し、事後指導は事案が起きてからにはなるが、その都度丁寧な指導を行った。しかし、SNSが絡む事案は起きているため、引き続き指導を行う。	
次年度への改善点		
④	SNSが絡む生活指導事案は年々増加している。ゼロにすることは難しくても、増加を食い止められるよう、来年度も引き続き外部講師を招いて研修会を行い、教職員のスキルアップを図る。また、家庭と連携して生徒と向き合えるよう、保護者対応のスキルも向上させていく。	

取組内容⑤【基本的な方向2 道徳教育の推進】		B
<p>・道徳教育を推進することを通して、自己の生き方を考え、自他を大切に、よりよい集団生活を送る基本となる道徳性を養う。</p> <p>指標</p> <p>・授業実施後の生徒の感想より、各内容項目についての理解が深まっているか、また実践したい意欲に結びついているかを確認する。</p>		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑤	道徳ノート、独自で作成したワークシートを活用し、多面的・多角的にものと考え、深める授業が各学年で展開できているように感じた。	
次年度への改善点		
⑤	道徳の授業展開の仕方で悩んでいる若手教員が見られた。来年度は若手教員に向けての授業展開研修を一度は行えればと感じた。また、道徳学習会への呼びかけも積極的に行いたい。	
取組内容⑥【基本的な方向2 キャリア教育の充実】		B
<p>・キャリア教育の充実として、社会情勢に配慮した形で職業講話、職場体験学習等を行い、自らの進路について主体的に考える姿勢を育てられるよう、計画的に進路指導を行う。また、キャリアパスポートにより小学校から系統立てた進路指導ができるように配慮する。</p> <p>指標</p> <p>・進路学習実施後の生徒アンケートで、「有意義であった」「毎日の学習が大切だ」という肯定的な回答を75%以上にする。</p>		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑥	進路学習後のアンケートにおける「有意義であった」という設問への肯定的回答は90%以上であり、取り組みへの関心は高まっている。	
次年度への改善点		
⑥	例年の取り組みだけにとどまらず、より生徒の希望に沿った取り組みを企画、実施していきたい。	
取組内容⑦【基本的な方向2 人権を尊重する教育の推進】		B
<p>・日々の教育活動のなかでの人権を尊重した生徒への関わり、また各学年の実態に応じて各人権課題について学習を深めることを通して、人権尊重の学校づくりを進める。</p> <p>指標</p> <p>・各学年とも「にんげん」集中実践を終えた後に生徒に対してアンケートを行い、授業に対する満足度や肯定的な評価を指標とする。</p>		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑦	各学年において、人権を課題とする取り組みを行っており、人権について考える機会を持った。	
次年度への改善点		
⑦	人権課題として、特に渡日生徒が多くなっている現状から、多文化共生、相互理解についての取り組みをより進めていきたい。	
取組内容⑧【基本的な方向2 多文化共生教育の推進】		B
<p>外国にルーツを持つ生徒が普通の授業で困らないよう、日本語指導や基礎・基本的な学習能力の向上に努める。</p> <p>指標</p> <p>・海外のルーツを持つ生徒に対して、週1回以上の放課後学習や授業中の抽出指導などを行い、本人が希望する高校に進学ができるよう進路指導を含め、保護者の理解が得られるよう努</p>		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑧	進路保障に向けて、日本語指導教室との連携を通じて、それぞれの進路決定が進められた。また、多文化共生の観点から、「国際クラブ」の中国学級を開催することができた。	
次年度への改善点		
⑧	引き続き、取組を進めるとともに、相互理解を深められるような手立てや取組を進める必要がある。	

大阪市立木津中学校 令和7（2025）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標（最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上）	達成状況
<p>①中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。（令和6年度2年国語0.78数学0.73／1年国語0.80数学0.77）</p> <p>②大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合（4技能）を、55%以上にする。（令和5年度38.8%／令和6年度69.7%）</p> <p>③年度末の校内調査における「学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を40%以上にする。（令和6年度34%）</p> <p>④年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。（令和6年度49%）</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>⑤令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比1.01をめざす。（令和6年度男子0.98／女子0.90）</p> <p>⑥生徒アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を令和6年度の水準（93%）を維持する。</p> <p>⑦外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、100%の進路保障をめざす。（令和6年度100%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <p>少人数授業を基盤にTTや習熟度別少人数指導など個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・相互に授業を参観する機会を年に2回以上開き、共通理解や指導力の向上を図る。</p>	B
取組の進捗状況の結果と分析	
① 全教職員での取り組みは計画できなかった。一部の教職員での授業参観や共通理解はできた。	
次年度への改善点	
① 全教職員で取り組めるように計画する。	

取組内容②【基本的な方向5 体力・運動能力向上のための取組の推進】		C
・毎回の体育の授業時間において準備運動を確実に行わせ、本校生徒の体力の向上に向けた取り組みの充実に取り組む。		
指標 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、本校生徒の柔軟性が昨年の全国平均との差より男女ともに0.5ポイント詰められるよう準備運動の充実に努める。		
取組の進捗状況の結果と分析		
②	準備運動を確実にいき、個々の課題に応じた取組はできたが望ましい結果とはならなかった。	
次年度への改善点		
②	取組をさらに強化したい。	
取組内容③【基本的な方向5 健康教育の推進】		B
・健康的な生活ができるよう、健康管理の啓発を行うとともに受診率の向上に努める。		
指標 ・保健日よりや保健委員会を中心とした情報発信をおこなう。 ・検診ごとに受診勧告を配付し、未受診の場合は、1学期・2学期に1度ずつ保護者に連絡する。 ・保健委員会を中心とした熱中症の予防、こまめな手洗いや消毒液の使用を呼び掛ける。 ・感染症が流行しやすい冬季には、より感染症を予防できるよう教室換気を行い、換気調査を		
取組の進捗状況の結果と分析		
③	保健委員会活動を中心に、水分補給や暑さ指数の確認の呼びかけを行うことで、熱中症予防の意識を高めることができ、熱中症での重大事案はなかった。昨年度に引き続き、保健委員会を中心に「葉と口の健康」の取組を実施することができ、受診率が24%（昨年度）から34%に増加した。感染症予防や日々の健康観察などを行い、インフルエンザなどでの学級閉鎖は見られなかった。	
次年度への改善点		
③	今後も個別の健康課題に合わせて、保健室の機能を生かした保健室経営を行いながら情報共有や情報交換を行い、校内外での関係職員や関係機関との連携を図る。また、委員会活動を中心とした健康課題における啓発運動も強化したい。受診勧告後の受診率は各健診50%以上を目指す。	
取組内容④【基本的な方向5 健康教育の推進】		B
・教員の指導のもと、生徒が主体的に美化活動を推進する。		
指標 ・毎日の清掃活動と月一回程度の大清掃を行う。 ・環境美化の意識を高めるために、風紀委員による清掃点検・学年集会での報告を行う。		
取組の進捗状況の結果と分析		
④	・ほぼ毎日の清掃活動と月1回程度の大清掃を実施することができた。 ・風紀委員による清掃点検・学年集会での報告により環境美化の意識を高めることができた。	
次年度への改善点		
④	掃除をする前に、汚さないという意識も高め、さらなる環境美化に努めたい。	
取組内容⑤【基本的な方向5 食育の推進】		B
・生徒の実態を踏まえ、家庭・地域と連携しながら、教育課程に基づいた食育の実践・推進を行うことにより、心身ともに生徒の育成を図る。		
指標 ・保健委員が中心となり、食に関する興味・関心を高めるようにする。 ・残菜ゼロをめざし、給食指導の充実に図る。 ・食育通信を年10回発行し、保護者・生徒に対し「食」に関する情報提供を行う。		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑤	指標として設定した取り組みは行えた。	
次年度への改善点		
⑤	今年度以上に生徒が主体となった取組を増やし、生徒の行動変容につながるよう努めたい。	

大阪市立木津中学校 令和7（2025）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標（最重要目標3 学びを支える教育環境の充実）	達成状況
<p>①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）（令和6年度84%）</p> <p>②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。（令和6年度84%）</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>③授業日における、学校ホームページの平均アクセス数を、100以上を維持する。（令和6年度127.6）</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>・一人一台端末の環境を生かし、個別最適化な学びと協働的な学びの実現に向けた取組の実施</p> <p>指標</p> <p>・令和6年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を65%にする。（令和5年度57%）</p> <p style="text-align: center; color: blue;">取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 学校内での心の天気の入力率を毎日共有し、パソコンの活用率は昨年を大幅に超える結果になった。</p> <p style="text-align: center; color: red;">次年度への改善点</p> <p>① 引き続き心の天気を中心に端末の活用を図っていく。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 働き方改革の推進】</p> <p>・「学校園における働き方改革推進プラン」に基づく取組の効果検証</p> <p>指標</p> <p>・ゆとりの日の設定を月2回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間は2日以上設定する。</p> <p style="text-align: center; color: blue;">取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>② ゆとりの日の設定は現状なされていない。学校閉庁日は夏期において4日間とられた。ゆとりの日設定はなくとも本校では長時間勤務が目立つ教員は少ない。校種別の月平均時間外勤務時間の37時間02分を下回る、25時間56分であった。</p> <p style="text-align: center; color: red;">次年度への改善点</p> <p>② 長時間勤務が目立つ教職員は少ないが、働き方改革をさらに推進するため、月2回ゆとりの日を設定する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 教員の資質向上】</p> <p>指導の方法を工夫・改善し、学習意欲を高めるとともに基礎・基本の学力の定着をめざして、相互授業参観と研究授業を実施する。</p> <p>指標</p> <p>・年2回以上の相互授業参観と研究授業を実施する。</p> <p style="text-align: center; color: blue;">取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>③ 全教職員での取組は計画できなかった。一部の教職員での授業参観や共通理解はできた。</p> <p style="text-align: center; color: red;">次年度への改善点</p> <p>③ 全教職員で取り組めるようにする。</p>	B

取組内容④【基本的な方向7 教育ブロックでの教育の推進】 学びサポーターを活用し、補充学習、放課後学習会、中3集中学習会、夏季休業中の補習などを実施する。		B
指標 ・補充学習を5教科中心に月2回実施する。 ・放課後学習会や夏季休業中の学習会への参加率を向上させるとともに中3集中学習会を充実させる。		
取組の進捗状況の結果と分析		
④ 放課後学習会は充実した取組ができた。その他の取組については計画通りとはならなかった。		
次年度への改善点		
④ 年度当初から綿密な計画を立てる。		
取組内容⑤【基本的な方向8 学校図書館の活性化】 図書館機能・蔵書を充実し、読書習慣の定着を図る。ICT機器を活用し、調べ学習・話し合い活動等の学びを推進する。		B
指標 ・図書館を原則毎日開館し、利用者数を増やす。蔵書調査・廃棄・充実を適正に行い、より時期やニーズに適した本を提供する。来年度の全国学力・学習状況調査において、同項目で肯定的な回答の割合を今年度より増加させる。		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑤ ほぼ毎日、昼休みに図書室の開館を実施した。蔵書調査を実施し、本の購入の指針を示したり、廃棄処理も適宜行ったりした。ただし、生徒の利用者数や読書に対する肯定的な姿勢は減少傾向にある。		
次年度への改善点		
⑤ 図書室以外で本の紹介コーナーや本を置く場所を確保し、より、生徒が本を手に取りやすい環境を整備していく。		
取組内容⑥【基本的な方向9 地域学校協働活動の推進】 ・小中連携アクションプランに基づき、「なにわ子ども人権文化祭」や「部活動体験」などで小中一貫教育を充実させ、連絡会や情報交換により、連携を密にする。		B
指標 ・年2回以上学校行事で児童生徒の交流を図る。「連絡会」を実施し、教職員との交流を図る。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
⑥ 体育大会は天候の関係で交流することはできなかったが、文化祭では予定通り行うことができた。連絡会は毎週人権教育主催者会にて持つことはできており、情報の共有を図ることができた。		
次年度への改善点		
⑥ 児童生徒の交流の機会をもう少し増やすことができれば、生徒だけでなく教員間の交流、情報の共有が図れるため、機械の創出に取り組みたい。		

大阪市立木津中学校 令和7（2025）年度 運営に関する計画・自己評価【各教科】

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗を測る指標		達成状況
<p>【国語】</p> <p>生きる力をつけるために、読み取る力をつけ、理解したことや考えたことを表現できるようにする。語彙を増やし、読み書きができるような取り組みをする。</p> <p>指標</p> <p>漢字の練習やテストを单元ごとに1回は行う。その際に、小学校で学習した漢字も復習させ、自ら発表する力を育てる。</p>		B
結果	漢字の力をつけるために、宿題のプリント、小テスト、テスト直前の集中的な学習などを行った。それによって、漢字の読みに関しては全体的に向上が見られた。朗読劇や暗唱などによって、人前で声を出して表現する力の向上に努めた。	
改善点	表現する力を底上げするために、基礎となる語彙を増やすことに加えて、文法の知識をしっかりと理解させることが必要だと考える。また、書いたり発表したりする機会を増やし、表現する力の向上にも取り組んでいく。	
<p>【社会】</p> <p>ただ暗記するのではなく、1つの課題に対して「なぜ」「どのようにしてこうなったのか」を社会的背景から思考できるような授業を実施する。また、丁寧な指導を心がけ、ICTを活用した授業展開を行い、社会がより身近なものであることを理解させる。3学年を通して知識の定着を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体の授業を展開し、社会的事象についての思考力をつけ、社会の変化をふまえて、公正に判断し表現することができるようにする。 さまざまな資料やグラフを活用することにより、分析する力を養い、より深く考える力を育成する。 小テストや課題学習を実施し、授業内容を精選して、基礎的な学力の定着をはかる。 		B
結果	だれ一人残さない授業展開ができているのかをもう一度見直す必要がある。従来の授業展開は継続しつつ、単元に応じて授業形態を変える（ICT活用、グループワーク頻度の増加など）こと考えながら今後努めたい。	
改善点	全学年の学力の差が気になった。中間・期末テストのような特定の範囲の点数が高くても、実力テストのような応用問題と点数が低くなってしまふ。基礎徹底は当然だが、応用問題にも取り組ませていきたい。	

【数学】		B
<p>数学の基本となる基礎的な計算力を定着させ、数学に興味・関心をもち、自ら進んで学習する態度を養う。</p> <p>指標</p> <p>各学年とも週1回の補充時間と朝学習の充実、各定期テスト前に2時間以上は、基礎・基本の演習を繰り返し行う。</p>		
結果	<p>・全学年において、T・T等による体制で授業を実施した。適宜、演習の時間を設定し実施した。基礎学力に課題のある生徒が多いので授業中などの教材や課題プリントなどの内容を工夫し、難易度を考慮した。今後も可能な限り基礎学力の定着を目指したい。</p>	
改善点	<p>・ほぼ毎回の授業でデジタル教科書などのICT教材を使用した。今年度は、新しい教科書に変わったこともありデジタル教科書の機能も変わっていた。使いたい機能が無くなっていたり、新しい機能が加わっていたりした。授業での使用にあたって積極的に試行錯誤を行い、有意義な教材を取り入れたいと考える。</p>	
【理科】		B
<p>生徒が観察・実験をすることで、生徒の興味関心をひきつける工夫をする。</p> <p>定期考査前には試験範囲の復習・演習をおこなう。そういった取り組みにより基礎学力の向上につなげる。</p> <p>指標</p> <p>実験については、1月に1回以上は取り組む(3年生3学期は除く)。復習・演習は、定期考査の前に3時間以上取り組む。</p>		
指標	<p>実験に関しては目標通り行うことができた。また、デジタル教科書などを多く利用することで生徒の視覚的理解を深めるよう取り組みことができた。復習や演習も目標通り取り組むことができた。</p>	
改善点	<p>基礎的学力の向上に関しては引き続き取り組み必要がある。実験や観察の手法も、生徒がより探求的に取り組むことができるような教材にしていく必要がある。</p>	
【音楽】		B
<p>主体的に学びに向かう姿勢を醸成するために、毎回の授業のめあてや目標を提示し、振り返りを行い、毎時間の達成感や理解の向上につなげる。</p> <p>指標</p> <p>・每学期グループやペア活動を通して、生徒が教えあったり、考えたこと、工夫することを意見交換できる機会を作る。</p> <p>・意欲的に取り組めるように各学年2種類以上の楽器を使い、基礎的な奏法や表現方法を各時間で定着する。</p>		
結果	<p>毎時間めあて、目標の提示、振り返りを行った。また、生徒が教えあう機会を作り、学習の定着を図った。</p>	
改善点	<p>2種類以上の楽器を使い、奏法や表現方法を身に着けることができたが、創作活動や、ICT機器を使った授業を今後行い、より意欲的に取り組めるようにしたい。</p>	

【美術】		B
<p>毎回の授業の目標をよりわかりやすく設定し、生徒たちが目標に向かって取り組む意欲を高め、それぞれの表現力や技能の向上をより感じられるようにする。</p> <p>指標</p> <p>毎回の授業後にその日の達成を振り返らせることにより、自分の成果を実感させる。作品が完成したら自分の作品について発表したり他の生徒と作品について語り合ったりすることで、創作する自信につながるようにし、意欲が高まるようにする。</p>		
結果	全学年、毎時間の目標設定を各自で確認し記入をする姿勢は定着できていた。	
改善点	記入の定着はできているが、目標内容についてはしっかりと考えて記入する生徒が少ない。目標内容がしっかりと記入できるようにしていきたい。	
【保体】		B
<p>体育活動の基本となる体力の向上をめざし、各種目において技術を向上させる土台作りをする。また、生涯スポーツにつながる授業を展開する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初にトレーニング（腹筋・背筋・腕立て）をおこない、3年次には全員が決められた回数（男子30回・女子20回）をこなせるようにする。 ・各種目の特性に応じてグループでの活動を取り入れ、生徒がお互いにアドバイスし合える環境をつくる。 		
結果	トレーニング・グループ活動・体育的行事は指標通り実施できた。	
改善点	さらなる充実を目指し、計画を綿密に立てる。	

【技家】		B
<p>生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し想像する資質・能力を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を身につけるために、各学年実習に力を入れ、その結果を2回以上展示や発表させる。 ・各学年、総合的な言語活動を1テーマ以上行い、読解力を中心とした思考力・判断力・表現力を育成する。 		
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、多くの動画資料や実習を取り入れて体験的な学習を行い、興味・関心を高めることに努めた。作品について、お互いが評価し合い、意見交換も行った。 ・1年生は、作品の構想図・木材加工実習・Wordで木材加工の作品紹介カード制作、調理カード・刺し子のふきん製作・調理実習。2年生は、栽培実験実習・ダイナモチューブラジオ製作・学習端末でSDGsについて調べ学習、エコバック製作。3年生は、LEDを光らすプログラムを作りイルミネーションメッセージ・卒業記念マグカップのデザイン制作、絵本・フェルトのティッシュケースカバー製作で、2回以上展示や発表を行った。 ・多くの実習を取り入れて体験的な学習を行い、興味・関心を高めることができている。また、学習端 	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・見方・考え方を働かせた深い学びをするために、学習用端末やICT機器を活用した授業展開や実習内容に取り組む。 ・総合的な言語活動を通じて、読解力を中心とした思考力・判断力・表現力を育成する。 	
【英語】		B
<p>4技能統合型の授業実践を通して発信力を高める。また、学習形態や課題を工夫し、表現活動を支える基本的な表現や語彙の定着を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において、生徒が英語を使って互いに意見を交流する機会を毎時間設ける。 ・各学年、学期に1回以上生徒が自分で調べたり、考えたりしたことをまとめ、発表する機会を設ける。 ・単元ごとに、暗唱テストや語彙・表現の小テストを実施する。 		
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、生徒が英語を使って互いに意見を交流する機会をできる限り設けることができた。しかし、パターン化してしまったり、基本的な語彙や文法の定着がないと難しい面もある。主体的に考え英語で意見をいうために、より工夫して取り組んでいく。 	
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、暗唱、語彙、表現などの小テストを継続し、基礎的な文法や語彙を定着させる。 ・自分の考えを英語で表現する機会を設ける。 ・TTなどでの連携をさらに図って、生徒のサポートを強化し、学習意欲を高めるようにしていく。 	